

**HARI** Question Bank

東洋医学シリーズ

クエスチオン  
バンク

衛生学  
病理学概論

蛭東洋医学研究所

## 目次

衛生学Ⅰ	・・・・・・・・・・・・	3
衛生学Ⅱ	・・・・・・・・・・・・	12
病理学概論Ⅰ	・・・・・・・・・・・・	20
病理学概論Ⅱ	・・・・・・・・・・・・	27

※ページ番号はpdfファイルのページになります。

## 本書の使い方

- ✓ 左半分 穴埋め問題になっています
- ✓ 右半分 回答文になっています
- ✓ 右半분을隠して、左半分を見ながら、  
右側の内容が答えられるよう暗記しましょう

# 衛生学 I

# 衛生学 I

①

① 衛生学とは ○ 健康の増進と疾病の予防 ○ 社会生活の改善  
 ○ 歴史 中世: 14-17世紀 ○ 19世紀: 19世紀 ○ 20世紀: 20世紀  
 ○ 16-19世紀 衛生学の発展 ○ 大石, ○ 免服の時代  
 20世紀以降 ○ 衛生, 人の健康と社会  
 ○ 1948年, 1978年, 1986年の主要事  
 ○ ① 健康 定義 2つ  
 ○ ② 健康の定義, 20世紀  
 ○ ③ ①の概念, 定義, 人の健康と社会との関係  
 ○ 位置付け ①  
 ○ ② ③ ①の概念  
 ○ ③ ①の概念  
 ○ 日本での 江戸時代 ~ 戦前 ○ ①の概念 ○ ②の概念  
 1947年  
 1965-1974年  
 1982 ~  
 ○ WHO 日本での存在  
 ○ 最盛期 1960年代 ○ 対策 1-3  
 ○ ② ④ 4-6  
 日本への影響 ○ 地位, 歴史, ○ ①  
 ○ ① 健康の定義, 日本, 国別 ○ ①の向上 ○ ②の向上  
 ○ ①の定義 ○ ②の定義 ○ ③の定義 ○ ④の定義  
 ○ 国際生活機能分類 (ICF)  
 従来のICF分類 (ICD) ○ ①の概念 ○ ②の概念 ○ ③の概念 ○ ④の概念  
 ICF構造 ①-②-③-④ 1-3  
 ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺  
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺  
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺  
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺  
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺

人間・生存, 関連要因, 健康の保持(維持), 増進, 学問  
 防疫対策の重要性  
 [ミコニハ大学] 感染症  
 [世界保健機関(WHO)], 天然痘  
 ① WHO憲章, ② 1978年宣言, ③ 1986年憲章  
 [身体的, 精神的, 社会的に完全に良好, 生まれながらの振舞い]  
 [70年代 - 80年代 (PMC), 世界で2億人の人に健康に]  
 [ヘルスプロモーション, 1985年, 2000年, 改善]  
 [健康に関する大原則]  
 [発展途上国での保健医療活動の理念]  
 [先進国, 生活習慣病と慢性疾患の増加]  
 [感染症, 寄生虫対策] 2層の死  
 [保健行政, 公衆衛生, 労働保健, 健康福祉]  
 [母子健康法, 公害対策基本法, 労働安全衛生法]  
 [老人医療法, 健康増進法]  
 西太平洋地域  
 新型インフルエンザ(H1N1), HIV/AIDS, Tばい  
 A317, 食品保健(遺伝子組換え), 生活習慣病(NCD)  
 [2億, 70歳(1.6%)]  
 社会福祉, 社会保障, ① 公衆衛生  
 組織化された地域社会の努力, 疾病予防  
 寿命の延長, 身体的な健康, 精神的健康, 健康の向上  
 疾病の結果, 健康の水準, 健康の向上, 健康の向上  
 [健康状態, 身体構造機能, 活動  
 参加, 個人因子, 環境因子]  
 感受性期, 発症前期, 潜伏期の疾病期, 回復・機能障害  
 [無変化 病的 病的 治癒, 後遺病]  
 [一次予防 | 二次予防 | 三次予防 |]  
 罹患率低下, 死亡率低下, 生存期間延長, 活動制限防止, 社会復帰  
 健康増進 | 早期発見・治療 | 機能障害防止  
 特異的予防 (予防接種) | (健康診断) | リハビリテーション





# 衛生学 I

- (2)

- ① 医療保険, 被保険者, 窓口, 特徴
- 年金保険
- 労災保険 [ ]
- 雇用保険 [ ]
- 介護保険 [ ]

② 公的扶助 (加給), 〇の利益, 〇の調査申請

- ・社会福祉 〇の完成, 〇の物理的扶助
- ・税関 〇

③ 年齢 - 初産婦, 児童, 2身障者, 3知的障害者, 4老人

- ・社会保険費 〇, 高齢者 (年金受取人) 〇 〇%
- ・介護保険 〇, 〇, 〇
- ・社会福祉協議会 民生各庄の福祉, 仕事

④ 栄養の理論的物量 〇, 〇の摂取

食事摂取基準は, 国民の健康維持を目的とした基準

⑤ EER と 〇 × 〇

栄養素の設定指標 5

英法

〇% のエネルギーの

⑥ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥

- ・エネルギー不足, 老化に伴って, 食生活の変化
- ・脂質 不足 顕到
- ・飽和脂肪酸
- ・トリグリセリド 〇, 〇, DG, UL 〇
- ② ③ 〇, ④ 〇, ⑤ 〇, ⑥ 〇
- ⑦ 〇, ⑧ 〇, ⑨ 〇, ⑩ 〇

⑦ 微量ミネラル 4

- ① 〇, ② 〇, ③ 〇, ④ 〇
- ⑤ 〇, ⑥ 〇, ⑦ 〇, ⑧ 〇
- ⑨ 〇, ⑩ 〇

⑧ 鉄, ⑨ 亜鉛, ⑩ 銅, ⑪ マンガン

⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳

全国民 (全加), [各保険者], 強制加入, 国民皆保険

20歳以上 60歳未満, 国民年金機構 (厚生) 5割加入, 国民皆年金

[労働者], 労働基準監督署 (厚生), 保険料率等 100%, 自費負担

[労働者], 公費負担 (厚生), 保険料率等 50%, 自費負担

第1号: 65歳以上 第2号: 40-65歳, 市町村の特異区, [第3号: 国民皆年金加入者]

生活保護, 生活困窮者, 世帯単位, 本人

3ヶ月以内, 〇の国民, 医療扶助, 介護扶助

福祉事務所, 児童相談所, 保健所, 更生相談所

18歳未満 18歳以上, 18歳以上, 65歳以上

年金 増加 12%, 70%

⑧ 民間団体 / 厚生労働大臣の年報, 地方自治体, 厚生労働省

生活保護制度の推移

栄養素, 食品

エネルギー不足 栄養素の摂取量の基準

推定エネルギー必要量, 基礎代謝量 (BMR) × 身体活動レベル

推定平均必要量, 推奨量, 許容量, 上限量, 目標量

EAR, RDA, AI, UL, DG

50%, 92.5%, 100%

⑨ 77, 78, 79, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 90

77 三脂質, 脂質, 心筋梗塞, 糖尿病

HDLコレステロール (善玉) ↓, 肥満

脂質代謝 ↑, LDLコレステロール (悪玉) ↑, 糖尿病, 肥満

高血圧, がん, 胃がん, 膵臓がん, 胆管がん, 膵臓がん, 胆管がん

トリグリセリド排泄促進 / 骨量維持, 高カルシウム血症, 腎不全

⑩ 下痢, 骨形成不全, 腎不全

1 鉄, 2 亜鉛, 3 銅, 4 マンガン

⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳

⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳

⑳ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳

⑳ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳

⑳ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳

医療保険の仕組み 〇〇保険 (例)

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳

自給院 脂溶性 4つ ビタミン: O, 水溶性 4つ

- 欠乏 1. 2. 3. 4
- 1欠乏, 2欠乏2, 過剰1, 3欠乏, 4欠乏.
- 欠乏 5. 6. 7. 8

国民健康栄養調査 ○ 栄養素 ○ 栄養 ○ 栄養 ○ 栄養

④ 状況 栄養素 ○, 栄養素 ○, 栄養素 ○, 栄養素 ○  
断集検査 高血圧 ○, 血糖 ○, 尿酸 ○, 脂質 ○

④ 環境 大気 ○, 水 ○, 土 ○

12の測定値 2, 3.

4. 5. 6. 7. 8.

④ 騒音 ○ ( ) a) 1) 騒音 ○, 2) 騒音 ○, 3) 騒音 ○

振動 全身振動 ○, 局所振動 ○ 2種類

液状 2つ 合計

① 2つ 合計 19合計 3つ 2つ

① 程度, 騒音 ○

障害 大気 ○

③ 急性, 慢性

④ 慢性, 急性

④ ② 4つ

有害, 有害, ③, ④

⑦

大気 構成 4つ

- 1. 人体影響 ○, 2. 公害 ○, 3. 公害 ○, 4. 公害 ○
- 公害 ○, ○ 指標 ○, ○ 厚 ○

④ 大気汚染 ○ ○ ○ ○ 環境基準 ○ 設定

10項目

123

456

789

10

骨 A, D, E, 水 / 水 B<sub>1</sub>, B<sub>2</sub>, 12 B<sub>3</sub>, C

1月, 2骨, 3抗酸化作用, 4血液循環

1夜盲症, 2(子病)骨軟化症/高血圧血症

3溶血性貧血, 4出血傾向

5脚気, 6ビタミンB<sub>1</sub>欠乏症, 7痛風, 8糖尿病, 9壊血病

健康増進法, 厚生省, 毎年, 保健所の管理栄養士

適正値, 急増, 摂食 ○, 摂食 ○, 摂食 ○

[増加 ○, 60年代 摂食 ○, 70年代 摂食 ○], 20-40代, 摂食 ○

1気温, 2湿度, 3気流, 4輻射熱, 5地球温暖化

6アーク温度計, 7インフラ温度計, 8カマ温度計

9黒球温度計, 10観測中

11男性難聴 (感音性難聴), 12女性難聴 (伝音性難聴)

13聴覚障害 (聴覚障害), 14V1-1現象

15電離放射線, 16非電離放射線 (電磁波)

17粒子線 (α, β, 中性子線), 18電子線 (γ, X線)

19粒子線 ○ ○ ○ (電磁波), X線 ○ ○ ○

20細胞損傷, 21遺伝情報 ○ ○ ○

22皮膚紅斑, 23潰瘍, 24脱臼, 25骨折, 26再生性貧血

27白血病, 28淋巴瘤, 29胎児奇形, 30染色体異常

31紫外線, 32可視光線, 33赤外線, 34γ線

35β線 ○ ○ ○ 活性, 36細菌作用, 37電磁性磁気, 38血管拡張, 39国内障

40電子線 ○ ○ ○ 照射, 41白内障

42室系, 43調整系, 44アルゴリズム, 45二酸化炭素

46CO, 47化学的活性, 48IHL-1発生, 49慢性

50低気圧, 51室内空気汚染の指標, 52地球温暖化

53環境基本法, 54材料リサイクル法

55二酸化硫黄 SO<sub>2</sub>, 56一酸化炭素 CO, 57浮遊粒子状物質 SPM

58微小粒子状物質 PM<sub>10</sub>, 59二酸化窒素 NO<sub>2</sub>, 60光化学汚染物質 OX

61ベンゼン, 62トリス(2,4,6-トリクロロフェニル)メタン, 63シクロヘキサン

64フタル酸

# 衛生学 I

- ③

(9) 二次硫化物、公害、環境、CO<sub>2</sub> 濃度、発生、原因、  
SPM、<sup>(PM)</sup>、NO<sub>2</sub>、<sup>(NOx)</sup>、原因、OX<sup>(NOx)</sup>、公害、原因  
茶臼、<sup>(PM)</sup>、原因、OX<sup>(NOx)</sup>、公害、原因

(10) 水質基準、定義、法律、3、<sup>(PM)</sup>、原因、OX<sup>(NOx)</sup>、公害、原因

(11) 大腸菌、濁度、トリハロメタン、<sup>(PM)</sup>、原因、OX<sup>(NOx)</sup>、公害、原因

(12) 上水道、<sup>(PM)</sup>、原因、OX<sup>(NOx)</sup>、公害、原因

(13) 上水場の浄化、<sup>(PM)</sup>、原因、OX<sup>(NOx)</sup>、公害、原因

(14) 下水処理、<sup>(PM)</sup>、原因、OX<sup>(NOx)</sup>、公害、原因

(15) 排水処理、<sup>(PM)</sup>、原因、OX<sup>(NOx)</sup>、公害、原因

(16) 水質基準、<sup>(PM)</sup>、原因、OX<sup>(NOx)</sup>、公害、原因

(17) 大腸菌、<sup>(PM)</sup>、原因、OX<sup>(NOx)</sup>、公害、原因

(18) 衣服の機能、<sup>(PM)</sup>、原因、OX<sup>(NOx)</sup>、公害、原因

(19) 住居の健康、<sup>(PM)</sup>、原因、OX<sup>(NOx)</sup>、公害、原因

(20) 身体への影響、<sup>(PM)</sup>、原因、OX<sup>(NOx)</sup>、公害、原因

(21) 生物学的要因、<sup>(PM)</sup>、原因、OX<sup>(NOx)</sup>、公害、原因

(22) ① 〇と発生、〇の発生、〇の原因、発生原因  
② 〇の発生、〇の発生  
③ 近年〇の発生、〇の発生原因  
④ 〇の発生原因、〇の発生原因  
⑤ 食品添加物、〇の発生原因、〇の発生原因  
使用基準、<sup>(PM)</sup>、原因、OX<sup>(NOx)</sup>、公害、原因  
食品添加物の規制

旧平喘剤、酸性雨、/不完全燃焼、自動車、酸性雨  
酸性雨 (DEP)、<sup>(PM)</sup>、原因、OX<sup>(NOx)</sup>、公害、原因、<sup>(PM)</sup>、原因、OX<sup>(NOx)</sup>、公害、原因

水道法、環境基準法、水質汚濁防止法 (PM)  
排水処理、<sup>(PM)</sup>、原因、OX<sup>(NOx)</sup>、公害、原因、<sup>(PM)</sup>、原因、OX<sup>(NOx)</sup>、公害、原因

飲用、98%、水道法  
沈殿、ろ過、塩素消毒

速度速い、細菌除去能力高い、原生虫濾過  
フリプトスポリリウム、[高度上水処理]

生活排水、産業排水、汚水、雨水 75%  
下水道法、水質汚濁防止法

合流式、分流式(汚水別)、活性汚泥法、高度処理式  
大腸菌/PCB水銀、PCB / PCB水銀

水素イオン濃度、溶存酸素量(DO)、大腸菌群数  
全亜鉛、生物学的酸素需要量(BOD)、化学的酸素需要量(COD)

浮遊物質量(SS)、油分 (n-ヘキサン抽出物)  
DO / BOD / COD

体温調節、身体活動、身体保護  
CO<sub>2</sub> 0.1%以下、CO、10ppm以下に<sup>(PM)</sup>、原因、OX<sup>(NOx)</sup>、公害、原因

三ノハラ症候群、化学物質過敏症  
アレルギー、アレルギー、花粉症

発熱、肺炎、IPVIL、人工環境、冷却塔、風呂、加湿器  
夏型過敏性肺炎、アレルギー、アレルギー

増加、気象性、向上、集中空調施設  
塩素、上水/2キ、シキ / グロウ、セキ / グロウ

食品衛生法、食品添加物公定書  
一般毒性試験、特殊毒性試験

ADI (旧許容摂取量)、NOAEL (無害量)、[TDL (旧許容摂取量)]  
[有機系農薬、有機塩素系農薬、有機リン系農薬]

- 有机过氧化物化合物 3, (现状)

- 有机含氮化合物 4

① 废弃物处理 现状

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

生物浓缩 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

生物浓缩 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

侵入途径 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

② 公害 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

1-4  
5-6

原因 1. 2. 3. 4

4. 5. 6. 7. 8. 9. 10.

要件 1. 4. 2. 4. 5. 8

公害の回避 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

DDT (販売禁止), PCB (電子技術に有用), 水銀 (低温性)

水銀 - カドミウム, 鉛, 2, 2' (内分泌抑制作用)

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩



(4)

労働災害の予知と予防の重要性

労働災害の発生原因、人的要因、物的要因

労働災害の指標、37 1.00 2.00 3.00

業務上疾病の発生と業務上の関係

最長の疾病、労働災害の発生率

労働災害の発生率、近年の傾向

労働災害の発生率、労働災害の発生率

業務上の軸、通勤、労働者災害補償保険法(労災保険)  
 労働基準監督署設置、減少傾向、減少傾向  
 '事故率、死傷率、千人率、100人の労働者に対する、1000時間の労働者に対する  
 100人の労働者に対する、相当因果関係の成立、1000時間以内は労災  
 災害性腰痛(急性腰痛)、過労死、過労自殺、通勤 50-59歳  
 業務上精神障害、近年急増傾向、30-39歳代  
 業務上疾病、職業性疾患、10-15歳、病名、障害  
 化学的性生殖、大気中、強制的期間、体質と感受性  
 典型的な①主肺、②肺腺癌(肺癌)、過労性肺炎、含肺がん  
 遊離DNAの吸入、閉塞性拘束性換気障害、肺がん心  
 心臓外環境、石棉粉じん、JCS指、悪性中皮腫  
 'じん肺法、労働安全衛生法、石棉障害予防規則  
 じん肺健康診断、石棉製造禁止、健康管理手帳の取組  
 視覚への負担、筋骨格系への負担、精神神経疲労  
 肺がん、特有の発症原因、①癌原性物質  
 1.2 膀胱がん(泌尿器系)、皮膚がん(皮膚科)、消化器がん  
 3.4 白血病(血液系)、肺がん(呼吸器系)  
 5 肝血管肉腫(塩化ビニル系)  
 健康管理手帳  
 潜匿性(11/11中の工事)、脳内環境汚染、右脳への呼吸  
 熱痙攣、熱疲労、熱射病  
 肺がん、二次的循環機能障害、特発性、肺がん  
 6割、災害性腰痛、非災害性腰痛、肺がん  
 金庫の鍵、有機溶剤、有機化学物質(2000年)  
 有毒ガス中毒、(CO)農薬中毒(1000年)、二酸化硫黄  
 二酸化窒素

# 衛生学Ⅱ





# 衛生學 II

行政の対策 2008年の文化の○○○  
 行政の対策 2008年の文化の○○○  
 行政の対策 2008年の文化の○○○  
 行政の対策 2008年の文化の○○○

[6] 高橋石医学制度 1963, 1982, 2000年  
 2003年, 2008年  
 ① 行政の対策 2008年の文化の○○○  
 ② 行政の対策 2008年の文化の○○○  
 ③ 行政の対策 2008年の文化の○○○  
 行政の対策 2008年の文化の○○○  
 ADL & QOL 日本語

[7] 感染症の病原体の○○○  
 感染の因子 1. ①, 2. ②, ③, ④  
 ① 行政の対策 2008年の文化の○○○  
 ② 行政の対策 2008年の文化の○○○  
 ③ 行政の対策 2008年の文化の○○○  
 ④ 行政の対策 2008年の文化の○○○  
 ⑤ 行政の対策 2008年の文化の○○○  
 免疫保持力の○○○  
 1-3, 2-3, 1-4, 2-x

① 直接伝播 37 ①, ②, ③  
 ① 47 ①, ②, ③, ④  
 ② 57 ①, ②, ③, ④  
 ③ 27 ①, ②, ③, ④  
 ④ 27 ①, ②, ③, ④  
 ⑤ 37 ①, ②, ③, ④  
 ⑥ 7  
 ⑦ 2  
 垂直伝播 / 水平伝播

## ②

特定健康診査, 特定保健指導, 高齢者医療, 介護  
 40~74才, 腹囲測定  
 行政の対策 2008年の文化の○○○  
 行政の対策 2008年の文化の○○○  
 行政の対策 2008年の文化の○○○  
 行政の対策 2008年の文化の○○○

肺, 胃, 大腸, ↑肺, 大腸, 膝, ↓胃, 肝  
 大腸, 乳房, 肝, ↑肺, 大腸, 膝, 乳房, ↓胃, 尿管, 子宮  
 腹囲男85cm, 女90cm 血圧, 血糖, 脂質, BMI  
 高齢者医療, 老人介護法, 介護保険制度,  
 健康増進法, 高齢者医療, 介護法  
 市町村, 福祉の措置, 広域連合, 15歳以上, 65~74歳者  
 医療費適正化計画, 特定保健指導, 特定保健指導, 高齢者医療  
 社会保障制度, 年金, 医療, 労災, 介護, 40~74才の国民  
 市町村の負担, 65才以上, 40~64才の医療従事者の  
 要介護, 要介護, 予防給付, 要介護: 介護給付, 1割  
 日常生活動作, 生命生活動作

微生物, 宿主, 感染, 症状, 感染症  
 1. 感染源 (病原体), 2. 感染経路, 3. 宿主, 4. 症状  
 直接伝播, 間接伝播, 垂直伝播, 水平伝播  
 抵抗力, 免疫  
 先天性免疫 = 非特異的, 自然後天性, 特異的獲得  
 自然免疫, 人工, 能動, 受動  
 1-3 感染の伝播, 2-3 伝播, 1-4 母体免疫, 2-4 血清  
 集団免疫

直接接触, 飛沫散布, 母子感染  
 接触, 性交, 土壤, 咬傷, 炭疽  
 ① 梅毒, 淋病, HIV, H2V, HBV, 破傷風, 炭疽, 狂犬病  
 ② 飛沫, 空気, ③ 接触, ④ 咬傷, ⑤ 土壌, ⑥ 咬傷, ⑦ 土壌  
 飛沫核: 麻疹, 水痘, 結核, 塵埃: 結核, 狂犬病, 炭疽, 狂犬病  
 "経胎盤", "経産道", "経母乳", ⑧ 接触, ⑨ HIV, H2V, HBV, HCV, H2V, 麻疹, 73歳以上, 妊婦  
 単眼HIV, 梅毒, ⑩ HBV, HCV, H2V, 麻疹, 73歳以上, 妊婦  
 単眼HIV, ⑪ HTLV-1, H2V  
 ⑩, ⑪ / ⑫

間接接触 30 00 接触, 00 接触, 00 接触

① 0000 0000 40

② 700000000000, ④ 200000000000

⑤ 30 ⑥ 30, 2000 0000 0000

③ 2000000000, ⑦ 30

⑧ 50

④ 免疫 2種 ①=0, ②=0, ③=0, ④=0, ⑤=0, ⑥=0, ⑦=0, ⑧=0

① - A, B

② - A, B

④ 免疫 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

⑤ 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

70

[8] 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

1 70

2 70

3 50

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

⑤ 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

[9] 消毒法 3種 (0: 消毒)

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

① 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

② 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

1 環境感染, 2 媒介物接触, 3 媒介物接触

塵埃感染: 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

HBV, HCV, HIV, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

1-5 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染, 00 感染

# 衛生学 II

③ 光線 ○, ( ) 法 消毒 ○, ○ 法 ○ 線

④ 音波 ○, ⑤ 3 級 ○ 毒 性 ○

④ 化学的 ① ② ③ ④

① 20 (70%), ○, ② ○, ○

③ ○ 10-20% 吸 収, ○, ④ 日 晒 ○ 吸 収, ○ ○ 20

3, ○, ○, ○

⑤ ⑥ ⑦

⑤ 3,

⑥ 20 ○ ○ (70%)

⑦ 20 ○ (70%), ○

⑧ ⑨ ⑩

⑧ ○ (70%) ⑨ ○ (70%)

⑩ ○, ○

芽 胞 上 有 効

⑩ HBV 上 有 効

④ 手 指 消 毒 用 の 洗 液 ○ の 技 法, ○ 2 分, ○ 2 分  
消 毒 力 20, 連 乾 式

○ 20% ○ の 吸 収 ○ 法 で 定 め ら れ る

加 熱 時 ○ の 吸 収 効 率 約 50%, 第 4

器 具 の ○ 消 毒 と ○ 消 毒

加 熱 時 の ○ 吸 収 効 率

現 在 消 毒 剤 の ○ 血 液 汚 染 ○

○ 思 惟 性 疾 病 の 規 則 30 ○ 法 ○ 20% (100%)

○ 20% 20% (10%)

芽 胞 形 成 菌 10<sup>10</sup> 個 以 上 の 消 毒 力 20% 000

消 毒 法 30

④ 疫 学 3 要 因 ○ 要 因 3, 肝 心 吸 収 汚 染

疫 病 の ○ 因 子 = ○, F1's ○ 因 子,

疫 病 の 因 子 間 接 性, 関 連 の 関 係 < 5

疫 病 の 因 子 間 接 性, 高 給 及 不 安 定, 疫 病 の 因 子 間 接 性

因 子 と 疫 病 の 関 係, 一 定 の 因 子 間 接 性

流 行 因 子, ○ 流 行, 疫 病 型, 疫 病, 疫 病 型

疫 病 の 一 定 の 因 子 間 接 性 の 関 係 = ○/○

一 定 の 因 子 間 接 性 の 関 係 の 関 係 = ○/○

疫 病 の 一 定 の 因 子 間 接 性

# ③

日 光 消 毒, 毒 外 殺 菌 (消 毒) 法, 有 効, 疫 病 殺 菌 力 の  
高 同 殺 菌 法, 濾 過 滅 菌 法, 有 効

フ 21-11 級, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌

石 炭 酸 (フ 21-11), 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌

毒 外 殺 菌 (70-80%), 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌

毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌

毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌

毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌

毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌

毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌

毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌

毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌

毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌

毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌

毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌

毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌

毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌

毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌

毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌

毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌

毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌

毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌

毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌

毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌

毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌

毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌

毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌

毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌

毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌

毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌

毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌

毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌

毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌

毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌, 毒 外 殺 菌

年齡構成比例等(1) 死亡率(2) 死亡率(3) 比較(4)  
相對危險度(5) 變異(6) 檢定(7) 檢定(8) 檢定(9)

1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) 8) 9) 10) 11) 12) 13) 14) 15) 16) 17) 18) 19) 20)

(12) 疫學的研究分類, 問答(1) 問答(2)

- ① 類及的疫學研究 → 時空有關係(1) 時間比較(2) 復發再檢証(3) 連續預防(4) 比較(5) 暴露
- ② 胸胸軸, 體表(1), 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20
- ③ 胸胸軸, 體表(1), 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20
- ④ 胸胸軸, 體表(1), 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20

② 生存率(1) 生存率(2) 生存率(3) 生存率(4) 生存率(5)

③ 治療前後比較, ランダム化比較試験

④ 保健統計, 大至(1) 大至(2) 大至(3) 大至(4) 大至(5)

① 大至(1) 大至(2) 大至(3) 大至(4) 大至(5)

③ 對象, 調查期間, 發現(1) 發現(2) 發現(3) 發現(4) 發現(5)

④ 對象, 調查期間, 發現(1) 發現(2) 發現(3) 發現(4) 發現(5)

② 大至(1) 大至(2) 大至(3) 大至(4) 大至(5)

① 大至(1) 大至(2) 大至(3) 大至(4) 大至(5)

(13) 日本人口動態統計, 出生率, 死亡率, 人口構成(1) 人口構成(2) 人口構成(3)

② 出生率, 死亡率, 人口構成(1) 人口構成(2) 人口構成(3)

③ 出生率, 死亡率, 人口構成(1) 人口構成(2) 人口構成(3)

年齡調整死亡率, 地域比較, 年次比較  
3 變異性, 變異性(1) 變異性(2) 變異性(3) 變異性(4) 變異性(5)

相對危險度(1) 變異(2) 檢定(3) 檢定(4) 檢定(5) 檢定(6) 檢定(7) 檢定(8) 檢定(9)

記述疫學, 橫斷研究, 生態學的研究

分析疫學, 丁丁一研究, 症例對照研究

前向性, 長期間, 大至, 高, 調查困難, 計算(1) 計算(2) 計算(3) 計算(4) 計算(5)

後向性, 小至, 短期, 調查可能, 計算(1) 計算(2) 計算(3) 計算(4) 計算(5)

臨床試驗, 地域介入研究

治療前後比較, ランダム化比較試験

1 人口統計, 2 疾病-障害-死亡統計

3 人口動態統計(國勢調查), 4 人口動態統計

全國民, 5 年, 6 年, 7 年, 8 年, 9 年, 10 年, 11 年, 12 年, 13 年, 14 年, 15 年, 16 年, 17 年, 18 年, 19 年, 20 年

全數, 14 歲以下, 保健所 → 厚生労働省

5 國民生活基礎調査, 患者調査, 創傷死傷者調査

5 年, '34 年, '1 回, '5 一部の國民

國民健康・營養調査, 厚生労働省, 毎年, 一部の國民

給人口, 減少, 女性, 年少, 2 老年, 老年

前期, 前期, 後期, 0~4 歳, 5~64 歳, 65 歳以上

65~74, 75 以上, 1/4 = 25%

年人口指數, 老年人口指數, 後進人口指數, 老年化指數

人口ピラミッド

出生數, 男, 出生率, 死亡率

合計特殊出生率, 橫斷, 2.1, 低再生率, 低再生率

1, 再生率, 3 指標, 4 指標, 5 指標

① > ② > ③

粗死亡率, 增, 年齡調整死亡率, PMI (Proportional mortality indicator)

致命率, 生存率, 生命表, 1. 5., 平均壽命, 平均壽命

① 当該年齢者, ② 男性, 有許者, 全國民, 3 割, 男 20~29 歳, 女 10~19 歳, 5 割, 男 10 歳以下, 女 10 歳以下, 國民生活基礎調査

# 衛生学 II

④

○病院に入院した人の割合、全人口の割合、65歳以上の割合

和の値、男女

○病院への入り具合 ○調査

調査した日に受療した患者数 20 人の

施設への割合、65歳以上の割合

○①2人10人入った割合、割合

○調査期間中に入院した患者の在院期間の平均  
長さの傾向

入院者率 , 4割, 6割

男女比 = 高血圧症

患者調査

特定患者数

流行傾向, 増加

受療率

平均在院日数

指標及 WISHA 調査

# 病理学概論 I

# 病理学概論 I

—①

① 病理学とは: ○ ○ と解明の学問

2 病理学の種類

対象 ①, ②, ③, ○ ○ ○ ○

② 疾病とは, ○ ○ → 破綻した状態, 対比, 例

2 病因とは, ○ ○ ○

3 疾病-分類 (約做)

1-3

③ 反対, 用法

4.5.6

④ 充血とは ○ 例 ○, 色, 例

2 充血とは ○ 例 ○

3 充血の種類 2 → ○ ( ): ○, ○ ○

⑤ 充血の種類 3 → (端行)

原因

1-3

⑤ 充血の分類 (例) ③ の症状 ①-③

場行

1-3

⑥ 471-セとは

6 貧血とは ○ ○ 性

虚血とは

7 虚血の種類 原因 (血管の病気) 3 →

名称, 例

代別 ①, ②, ③

③

⑧ 虚血の徴候と結果 3 → (例) (経過)

⑨ 出血とは

10 出血の原因/分類 2 → 名称, 例

状況

原因 2 →

①

4 →

②

② の状況

疾病の本態, 病変の本質

① 病理解剖学 ② 外科病理学 ③ 実験病理学

遺体: 医学の発展, 患者: 診断の一助, 小動物

生体, 小動物性, 寸寸及寸入, 正常の範囲の存在の比

病変 (疾病) の発生原因, 病変の原因

先天性 (出生前), 全身性 (系統的), 器質的 (形態異常)

後天性 (出生後), 限局性 (局所的), 機能的 (機能障害)

原發性 (一次性), 続發性 (原因不明), 主疾患

続發性 (二次性), , 合併症

動脈の流量が, 鮮紅色, 血管拡張

静脈の流量が, 暗赤色, 圧迫血が全形, 炎症反応

① 慢性充血 (作蓄性) 充血, 生理的反応, 炎症性充血, 鬱血

② 慢性肺充血, 大循環臓器充血, 門脈環充血

③ 左心の障害 (肺充血), ④ 右心 (大静脈充血), ⑤ 肝障害 (門脈充血)

⑥ 側副路, ⑦ 大動脈の拡張, ⑧ 食道静脈瘤, ⑨ 癌転移

腹, 食道の内側, 肛門

充血時の暗赤, 調の色

赤血球の減少 (A) の濃度の減少: 全身性

局所における 動脈血流量 の減少 (X) の減少

① 自律神経の障害 ② 血管壁の障害 ③ 血管壁外の影響

④ 血栓性虚血 (鬱血), ⑤ 閉塞性虚血, ⑥ 圧迫性虚血

⑦ 心臓病, ⑧ 動脈硬化性心筋梗塞や脳梗塞

⑨ 癌病, ⑩ 結核性多発動脈炎, ⑪ 癌

温度低下, 蒼白化, 栄養障害 → 細胞死 (壊死)

血管内の 赤血球 の流出

① 破綻性出血, ② 漏出性出血 (毛細血管)

③ 血管壁の破綻, ④ 血管内細胞の隙間形成

⑤ 外傷, 血管壁の障害 (硬化, 炎症, 瘤の形成)

⑥ 全酸系血, 細菌毒素の流入, ⑦ 血液の凝固, ⑧ 血管小枝の障害

⑨ 内皮細胞の減少, ⑩ 平滑筋細胞の減少, ⑪ 漏出性

11 出血の種類 3つ (内訳は出血部位) の出血の意味

- ① 吐血 ② 咯血 ③ 下血
- ① 食道・胃の出血は口の吐き出し
- ② 肺動脈の出血は口の吐き出し
- ③ 腸の出血は肛門の出血

規模の種類 血管の 出血の部位

- ① 点状出血 ② 直径3mm以下 / ③ 斑状出血 ④ 紫斑 ⑤ 血栓 (血小板)

12 出血性疾患の分類

出血傾向: 易出血性, 止血困難: 止血困難

13 血小板の原因

血小板因子の交換 (抗血小板薬の作用)

14 血栓とは

血管中の血液の固り

血栓が臨床的問題となるのは、血管内の血栓

血栓症, 血栓: 血管の外に血液の固り

15 血栓形成の誘因 3つ

- ① 血流速度の低下, ② 血管壁(内皮細胞)の障害
- ③ 血液性状の変化 (KOFD)

16 血栓の転移は? 4つ ① 配付の意味,

- ① 再交通, その後の変化,
- ② 消失, ③ 大きくなる, ④ 移動 (塞栓)

17 塞栓とは

血栓の脱落による血管の閉塞

18 塞栓の種類 原因5つ ① ② ③ ④ ⑤

<塞栓症> 3つ

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

- ① 血栓 (血栓) ② 癌細胞
- ③ 空気, ④ 脂肪栓, ⑤ 骨髄栓

④の結果

塞栓化 (左心房, 癌細胞の移動)

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

潜水病 (空気が), 潜水時の血管の閉塞

④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳

骨折の破綻した血管中の骨髄と脂肪栓: 主に肺動脈

19 塞栓症の特徴的起病部, 静脈系, 動脈系

① 肺, ② 脳, ③ 冠動脈, 四肢末梢

20 静脈系血栓: 静脈系に閉塞を形成する原因

奇異塞栓症, 閉塞性閉塞の起病部: 肺動脈

21 梗塞とは

血液の流れが塞栓により細胞に死滅 (梗塞)

22 梗塞の種類 2つ ① ②

- ① 貧血性梗塞, ② 出血性梗塞

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

① 脳 (脳心終動脈) ② 赤血球の出現, ③ 吻合

腸器

① 肺と腸以外 (脳, 心臓, 腎), ② 肺 (主), 腸 (吻合)

23 浮腫とは

組織液の過剰な蓄積による

24 浮腫の種類 3つ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳

- ① 毛細血管の障害, ② 毛細血管内圧の上昇, ③ 膠質浸透圧の低下

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳

① 炎症反応 (出血) ② 血液の凝固 ③ 水分の摂取障害

25 貯留液の性状 2つ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳

① 滲出液 (炎症) ② 漏出液 (浸潤) ③ 漏出液 (浸潤)



11 壊死の種類 11分類 2つ (形態)

形態 1. 2, 場所 1. 2

①は〇〇〇〇 ②は〇〇〇〇

12 壊疽の種類 13分類 2つ

現象 1. 2

14 アポトーシスとは

① 1. 進行性病変とは〇〇〇〇

2. 肥大とは, 3増殖とは.

4. 肥大の分類 3つ

1.

2.

3. 別名:

5. 増殖と主と病変とは? 3つ

6. 再生とは?

8. 再生の3様式, 名称, 場所

この手の形態は ①と②

①と②

① 1. 炎症とは. 〇と〇. 〇と〇

② ①と②

2 炎症の3病変

3つ

3 急性と慢性の5大徴候とは何所の

何所まで

③の原因 5つ

④の種類 5つ 症状, 病変

⑤の種類 5つ 病変

⑥の種類 3つ 病変

⑦

4. 5大徴候とは

①は. 〇〇〇〇 ②は. 〇〇〇〇

細胞の死. ①凝固壊死. ②融解壊死

①固く萎縮. ②液化, ①脳以外. ②脳, 脳梗塞により脳は液化する. 脳軟化症

壊死 + 腐敗, ①湿性壊疽, ②乾性壊疽

①ガスが発生(発酵), ②ミイラ化

ADPグラミ化された細胞の消失

細胞の代謝障害 = 機能亢進, 細胞の肥大と増殖(癌形成)

2. 細胞の容積の増大, 3細胞の数の増大

①紅芽肥大, ②代償肥大, ③偽肥大

① ①その場の仕事量に応じて肥大(生理的, 病前・病中)

② ②対の臓器の片側障害により片側性肥大

③ ③後天性肥大: 心臓の肥大, 乳腺細胞増殖, 筋細胞肥大, 腺細胞肥大

前立腺肥大, 乳腺症, 子宮内膜増殖症

欠損部位は増殖した同じ種類の細胞で元の状態に近づける

① ①生理的再生: 表皮, 粘膜上皮, 造血細胞.

② ②非生理的再生: 骨, 軟骨, 結合組織

③ ③欠損部の延長: 末梢神経

① ①日常的に幹細胞が活動. ②静止状態の幹細胞が再活動

幹細胞の再生: 真皮にあり表皮へ

① ①障害因子を排除し. ② ②傷害部位を修復する過程

③ ③病原体の感染, 物理的刺激, 化学的刺激, IL1, IL-1

④ ④進行性病変, 循環障害, 進行性病変

⑤ ⑤急性と慢性, 慢性

⑥ ⑥組織障害, 滲出, 組織増殖

⑦ ⑦ウイルス, 細菌, カビ, 原虫, 寄生虫

⑧ ⑧熱傷, 切傷, 裂傷, 紫外線, 放射能(癌発生)

⑨ ⑨酸, アルカリ, 光化学反応, プリンチン

⑩ ⑩喘息, じんましん, IL1, IL-1性鼻炎

⑪ ⑪発赤, 発熱, 腫脹, 疼痛, 機能障害

⑫ ⑫刺激を受けた部位は充血(赤). ⑬ ⑬血流が増加して熱が出る.



好虫死心 - ①膿瘍, ②蜂巣炎, ③莖膿

例

③増殖性炎症(例:肉芽)  $\rightarrow$   $\rightarrow$   $\rightarrow$   $\rightarrow$   $\rightarrow$   $\rightarrow$

代表例

④持異性炎症  $\rightarrow$  慢性炎症, 炎症  $\rightarrow$  増殖性炎症

代表例

6) 結核結節  $\rightarrow$   $\rightarrow$   $\rightarrow$   $\rightarrow$   $\rightarrow$   $\rightarrow$

膿瘍  $\rightarrow$  変形  $\rightarrow$   $\rightarrow$   $\rightarrow$   $\rightarrow$

7) 結核症の初期変化群  $\rightarrow$  炎症  $\rightarrow$   $\rightarrow$   $\rightarrow$   $\rightarrow$   $\rightarrow$

$\rightarrow$   $\rightarrow$   $\rightarrow$

8) 二次結核症  $\rightarrow$  炎症, 炎症  $\rightarrow$

炎症

炎症の5大徴候

障害因子  $\rightarrow$

炎症反応の共通の変化  $\rightarrow$

① 浸出  $\rightarrow$   $\rightarrow$   $\rightarrow$   $\rightarrow$

浸出物 (小分子物質)

血精蛋白の合成  $\rightarrow$   $\rightarrow$   $\rightarrow$   $\rightarrow$

炎症利相

可利相

①限局性  $\rightarrow$  ②散在性  $\rightarrow$  ③体の腔所に蓄積性

①に炎症, ②急性虫垂炎,

線維芽細胞の増殖  $\rightarrow$  膠原線維作り, 線維化  $\rightarrow$   $\rightarrow$

肝硬変症, 特硬化症

肉芽腫形成, ②ADP-シ

結核, 梅毒, HIV病, 野兔病, 腸炎, 炎症  $\rightarrow$   $\rightarrow$

結核症におよぶ肉芽腫  $\rightarrow$  炎症環境, 乾酪化

類上皮細胞 (炎症  $\rightarrow$   $\rightarrow$ ), マクロファージ巨細胞

初起感染, リンパ流に乗って結核菌の移動  $\rightarrow$

肺門リンパ節炎

悪化  $\rightarrow$  進行  $\rightarrow$  粟粒結核症, 肺空洞化, 脊椎カリエス  $\rightarrow$   $\rightarrow$

発赤, 発熱, 腫脹, 疼痛, 機能障害

病原体の感染, 物理的刺激, 化学的刺激, PLN  $\rightarrow$

血流障害, ①血管障害  $\rightarrow$  浸出, 炎症の増殖

ヒスタミン, グラニシン, プロスタグランジン, セロトニン

アルブミン, グロブリン, ファブリテン

免疫グロブリン, 補体

起炎因子の作用による血管延伸増大刺激  $\rightarrow$

細胞間の粘着  $\rightarrow$  血管壁細胞の粘着  $\rightarrow$

細胞間の粘着  $\rightarrow$  細胞間の粘着  $\rightarrow$  毛細血管の拡張  $\rightarrow$

充血  $\rightarrow$  血管透過性の亢進  $\rightarrow$  浸出物の増加  $\rightarrow$  炎症の増大

# 病理学概論 II

# ○ 病理学概論 II

—①

① 免疫とは。 ○抗体 ○抗原 ○免疫細胞 (4)

① の方法 27 ○免疫 ○免疫

主役の物質 3, 4 ○ (○が作り)

② 免疫-異常 37

③ (2) ⑤ とは

(2) 代表例 2種類 (3種類ある)

④ (4) ⑥ とは ○自己免疫 → ○自己免疫 12種類

(5) 代表例 67

u, b

c, d

e, f

⑤ (6) ⑦ とは。 ○自己免疫 ○自己免疫 ○自己免疫 (全2種類)

(1) I型自己免疫(アレルギー), 抗体, 抗原, 病名

起原 ○自己免疫 ○自己免疫 ○自己免疫 結合し

○自己免疫 ○自己免疫

II型自己免疫(アレルギー), 抗体, 抗原 47

起原 ○自己免疫 ○自己免疫 ○自己免疫 結合し

抗原, ○自己免疫 ○自己免疫 ○自己免疫 抗原結合

III型自己免疫(アレルギー), 抗体, 抗原

起原 ○自己免疫 ○自己免疫 ○自己免疫 結合し

○自己免疫 ○自己免疫 ○自己免疫 結合し

○自己免疫 破壊し

IV型自己免疫(アレルギー), 抗体, 抗原, 死肉, 自己免疫

○自己免疫 ○自己免疫 ○自己免疫 結合し

臨界値 ○自己免疫 ○自己免疫 ○自己免疫 結合し

V型自己免疫(アレルギー), 特徴 ○自己免疫, ○自己免疫 ○自己免疫 結合し

○自己免疫 ○自己免疫, ○自己免疫 ○自己免疫 結合し

⑥ 移植. 分類, 提供, 受容, 移植片の排斥(異物), 分類

② 2種類 ○自己免疫, ○自己免疫

特徴 ①, ②, ③

拒絶反応 = ○自己免疫 ①, ②, ③, ④, ⑤, ⑥

一時的なもの, 一時的なもの, ○自己免疫, ①, ②, ③, ④, ⑤, ⑥

9) HLAは ○自己免疫, ○自己免疫 ○自己免疫, ○自己免疫 ○自己免疫

10) 移植片の排斥 ○自己免疫 ○自己免疫

異物

自己と非自己を識別, 非自己を排除する仕組み

液性免疫, 細胞性免疫

抗体(B細胞で作る), 免疫細胞(球(T細胞の変化))

④ 免疫不全, ⑤ 自己免疫異常, ⑥ T細胞

免疫の仕組みを自分の異常(免疫システムエラー)

先天性, 後天性 → イース

免疫反応は自己に向う → 自己非自己を認識し

全身性エリテマトーデス(SLE), 関節リウマチ

橋本病, 進行性全身性硬化症(強皮症)

皮膚筋炎, 原発性胆汁性肝硬変症

免疫の過敏(過剰)反応は必ずしも不利な反応を示す

アレルギー型, IgE, 花粉症, 喘息, アレルギー性鼻炎, じんましん

IgE抗体は抗原と細胞膜上の受容体と結合し

アレルギー反応の仕組みは ① ② ③ ④ ⑤ ⑥

細胞傷害型, IgM, IgG, 免疫性溶血性貧血

特異性血小板減少性紫癜, 橋本病, 甲状腺機能亢進症

抗体と抗原と結合し, 補体と関わり, 直接細胞を破壊する

自己細胞の自己免疫 → 自己非自己化し, 抗原結合

免疫複合体型, IgG, 急性全身性溶血性貧血(溶血性連鎖球菌感染症)

全身性エリテマトーデス, 血清病, 関節リウマチ

抗体と抗原の結合し免疫複合体が形成し, 過剰

形成し免疫複合体の形成は必ずしも補体と活発に

結合し炎症性の破壊を引

遅延型, 細胞免疫型, 免疫抑制剤, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ (1) ⑪ ⑫

⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ (1) ⑪ ⑫

補体, 破壊, パネドウ病

トナー, レジロイント, グラフト, 自己免疫, 同種移植, 異種移植

同種移植, 異種移植, 同種移植

同一個体内, 同一動物間, 異種動物間

HVG病, ①(-), ②(-), ③(+), ④(+), ⑤(+), ⑥(+), ⑦(+), ⑧(+), ⑨(+), ⑩(+), ⑪(+), ⑫(+), ⑬(+), ⑭(+), ⑮(+), ⑯(+), ⑰(+), ⑱(+), ⑲(+), ⑳(+), ㉑(+), ㉒(+), ㉓(+), ㉔(+), ㉕(+), ㉖(+), ㉗(+), ㉘(+), ㉙(+), ㉚(+), ㉛(+), ㉜(+), ㉝(+), ㉞(+), ㉟(+), ㊱(+), ㊲(+), ㊳(+), ㊴(+), ㊵(+), ㊶(+), ㊷(+), ㊸(+), ㊹(+), ㊺(+)

④, ⑤, ⑥, HLA一致, ⑦ HLA一致

細胞の自己免疫 → 自己非自己を認識, 自己免疫の存在を決定

骨髄移植は, 移植片の排斥反応を抑制する

GVI 交互





⑨) 病因は、遺伝的疾患、内分泌、免疫

- ① 遺伝的疾患、内分泌、免疫
- ② 遺伝的疾患、内分泌、免疫

- 1) 原因は / 4種類 ○, ○, ○, ○
- 2) 例として ① 原因: 新生児 ② 小児
- 3) ② 男性は ① ② (○, ○)
- 4) ③
- 5) ④

(内分泌)

- 6) 下垂体 前葉 ○ (胎前) 亢進 後葉 低下
- 7) ② 甲状腺 ○ 亢進 ③ ○ (胎前), ○ (胎後) 低下
- 8) ③ 副甲状腺 低下
- 9) ④ 副腎皮質 亢進
- 10) ⑤ 副腎髄質, 腰痛 亢進
- 11) 血(赤)蛋白の不足 (赤血) 低下
- 12) A, D 亢進 K, チアミン 低下 B<sub>12</sub>, C 低下
- 13) 甲状腺 1) TH<sub>1</sub> ↑ 2) カリウム ↓ 3) カルシウム ↓, ↓ ↓, 4) 鉄 ↓ 5) 鉄 ↑ 2) 後天性 先天性, 6) 銅 ↑ 後天性
- 14) 甲状腺の機能: ① 甲状腺の機能低下, 原因 ○ (胎前) ○ (胎後) ○ (胎前) ○ (胎後)
- 15) 糖尿病の程度: 1度, 2度, 3度, 4度
- 16) 反射性低血圧性利尿. 腎臓の ○ (胎前), ○ (胎後), 腎臓 3つ 腎臓, 腎臓
- 18) 太陽光線の障害作用の増加 ○ 亢進
- 19) 高血圧の障害 ○ 病, 原因

病気の発生原因: 内因, 外因

- ① 個体の問題: 原因, 遺伝, 内分泌, 免疫
- ② 外因の影響: 物理的, 化学的, 生物学的 刺激 (栄養素) (免疫系)

疾病の発生原因 / 年齢, 性別, 人種, 臓器・組織

先天性疾患, 肺臓病, 腎臓病 (腎臓病), 動脈硬化症 (心筋梗塞, 脳梗塞), 脳血管症

自己免疫疾患, 胆石症, 骨粗鬆症, 鉄欠乏性貧血

成人T細胞白血病: 九州に多い

抑うつ状態 = 脊髄前角細胞

日本肝炎ウイルス → 大脳灰白質

腸の2 → 小腸, 赤痢 → 大腸

胃癌 → 胃小腸, 子宮癌 → 子宮

- 巨人症 (成長期), 先端肥大症 (成人)
- 尿崩症
- バネ病
- ケルン病 (先天性), 粘液性腫瘍 (成人)
- テタニー (筋力低下, 手足のしびれ, 2180) - カルシウム低下
- クッシング症候群
- 褐色細胞腫 (2) カルシウム亢進 → 高血圧症
- PLGミン, 浮腫 (心臓)
- A: 夜盲症, 眼球乾燥症, D: 2) 痛 (3) 痛, 骨硬化症 (成人)
- K: 出血傾向, ナ: アゴラ (下痢, 皮膚炎), 皮膚炎
- B<sub>12</sub>: 巨赤芽球貧血 (悪性貧血), C: 壊血病
- 1) 高血圧, 2) 心臓障害, 3) 骨粗鬆症, テタニー (筋緊張), 鉄欠乏性貧血
- 5) 1) テタニー, 2) テタニー, 3) テタニー
- 性腺症候群. 3) テタニー (筋力低下), 赤痢, 3) 赤痢, 無尿
- 1) 紅斑 (赤痢), 2) 水痘, 3) 潰瘍, 4) 炭化
- 増殖能, 分化能, 骨髄の好中球 → 白血球, 1) 1) 前, 生殖腺
- 神経, 筋肉, 肝臓, 腎臓, 貧血, 免疫不全, 生殖不全
- 等外症
- 潜性病, 免疫系の子細胞血管の塞栓

# 病理学概論 II

- ③

予外内容 p.46

### • 化学的処理

20 病原菌 結核菌, 炭疽菌

整腸剤 (病原菌)

21 水筒汚染, 病原体-病原菌 水筒, 水筒

24 1ヶ月間 炭疽菌 炭疽菌 炭疽菌 炭疽菌 炭疽菌

① 菌交代現象 炭疽菌 炭疽菌 炭疽菌 炭疽菌

② 別病原菌 炭疽菌

③ 別病原菌 炭疽菌

25 病原菌 炭疽菌 炭疽菌 炭疽菌 炭疽菌

① 7332P → 0

② 2707-2 → 0

③ 7332P → 0

④ 原虫 → 0

⑤ 真菌 → 0

聴覚障害 - ステロイド, アスチレン, アスピリン

スモン病 (視神経障害) - チアミル

有機水銀 - 水俣病, カドミウム - イタイイタイ病

この見直しは必ず病原菌の力を発揮し得る

抗生物質 長期投与 大腸菌 大腸菌 大腸菌

白血病, 悪性リンパ腫, 悪性糖尿病, AIDS

偽股性大腸炎

1 炭疽菌, リリガム

2 炭疽菌

3 梅毒, コレラ

4 ロイツェルト チブチブ病 : スモン病 炭疽菌

5 炭疽菌, チブチブ病

6 炭疽菌 炭疽菌

本書の一部あるいは全部を、無断で複製、  
転載すること、インターネットで掲載する  
ことは、著作権者および出版社の権利の  
侵害となります。

あらかじめ許諾をお求めください。

本書を無断で複製する行為（コピー、  
スキャンなど）は、「私的使用のための  
複製」など著作権法上の限られた例外を  
除き、禁じられています。

また、複写物やスキャンデータを他者へ  
譲渡・販売することも違法となります。

## 東洋医学シリーズ クエスチョンバンク

発行者 大塚 信之

発行所 蛭東洋医学研究所

**HARI** Hotal Ancient-medicine Research Institute

住所 大阪府豊中市蛭池中町

<http://otsuka.holding.jp/HARI/>

E-mail : [hari@otsuka.holding.jp](mailto:hari@otsuka.holding.jp)

---

Printed in Japan ©2020 東洋医学研究所